

遠征報告

中村吉人

ICジュニアチャレンジワールドワイドファイナル2014

ICジュニアチャレンジワールドワイドファイナル2014に、7月26日～8月3日の日程で選手4名を引率してイギリス ウィンブルドンに海外遠征してきましたので報告をいたします。

このICジュニアチャレンジワールドワイドファイナルには、昨年2013年9月に千葉・東金のエストーレホテル&テニスクラブでICジュニアチャレンジ、アジア・オセアニア予選が行われ、東京都テニス協会所属の選手、恒松優也、甲斐直登、福田詩織、小堀桃子の男女4名が出場、オーストラリア、シンガポール、パキスタンとの激戦を制し優勝して決勝ラウンドに参加できた経緯があります。



まず、世界大会への礎をつくっていただいた、当テニス協会、日本ICの皆さん、頑張ってくれた選手の皆さんに感謝いたします。

予選を勝ち抜いて世界大会へ出場した選手は小堀桃子しかいませんでしたが、テニスプレイヤーが憧れるテニスの聖地ウィンブルドンで、イギリスICの温かいおもてなし受け世界のトップを目指す選手と試合ができたこと、また大会期間中沢山の懇親の場をもうけていただき多くの方と触れ合えたことは、今後のテニスとの係りをもつにあたり私たちコーチも含め最高の経験をすることができました。東京都テニス協会、IC事務局長 吉井様 同行していただいたICディレクターの吉井みさ子様 関係者の方々に御礼申し上げます。

遠征報告

◎大会内容

大会名 ICジュニアチャレンジワールドワイドファイナル2014

大会テーマ 16歳以下の各国ジュニア選手の間にはスポーツマンシップと国際親善を促進するというIC精神をジュニアプレーヤーたちと共有する。

日程 7月26日(金)～8月3日(日)

選手名 福島 晴、武藤 洸希、村橋 舞、小堀 桃子

会場 All England Lawn Tennis Club(AELTC)

宿泊 Holiday Inn Express London-Wimbledon South

引率者 鷲田 典之 中村 吉人

大会概要 ジュニアプレーヤー4名とキャプテン、専属コーチからなる4～6名チームによる国別対抗戦

参加国 イギリス・イタリア・アメリカ・アルゼンチン・南アフリカ・日本

試合形式 男女シングルス各2試合・男女ダブルス各1試合プレーされ、各試合は1ポイントにカウントされます。その結果、一番多くの試合に勝ったチームが勝利国となります。勝敗が3対3となった場合はミックスダブルスによる10ポイントマッチタイブレークを行い勝敗を決定いたします。

大会ルール 各試合2セットマッチ、ファイナル10ポイントタイブレークマッチ

参加選手年齢 予選大会開催日に17才の誕生日を迎えていない選手に限る。予選に出場していない選手は16歳とする。

◎日程経過

7月26日

6時50分 羽田集合 羽田空港国際線ターミナル・出発カウンター（BA）
8時50分 羽田発 BA 088、
13時15分 ロンドン着（時差8時間）イギリスIC会長はじめ3名のお迎えあり
15時50分 ホテルチェックイン
17時30分 ウインブルドンに向けてホテル出発
18時30分 キャプテン会議（ウインブルドン）
19時00分 バーベキューパーティ 参加者全員 施設見学 ウインブルドン
21時00分 ホテル着



（羽田出発カウンター）



夕食会場（ウインブルドン）



夕食 ハンバーガー



クラブハウス見学

7月27日

7時00分 集合 トレーニング

7時35分 朝食

9時30分 ホテル出発

11時00分～12時30分 イベント参加

12時40分 昼食

13時～16時10分 練習

18時 ホテル出発 ロンドン観光と食事 ロンドンアイ（観覧車）約3時間



イベント参加



（午後練習）

7月28日

7時30分 集合 トレーニング

8時00分 朝食

9時30分 ホテル出発

10時25分～10時50分 練習

11時00分～17時00分 試合 イタリア戦

18時00分～19時00分 ウィンブルドン施設見学

19時00分～21時00分 夕食

イタリア戦 シングルス0勝4敗 ダブルス2勝0敗 （2勝4敗）

BS1 Giovanni Fonio (ITA) 6-4 6-2 Kouki Mutou (JAP)

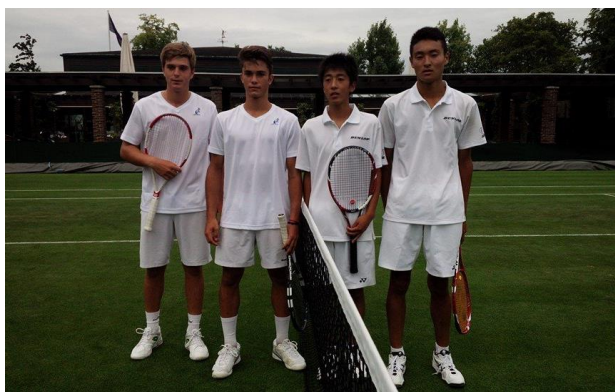
BS2 Corrado Summariva (ITA) 7-6(4) 7-6(4) Haru Fukushima (JAP)

B D Fonio & Summariva (ITA) 6-7(6) 6-0 [9-11] Mutou & Fukushima (JAP)

GS1 Federica Mordegan (ITA) 1-6 6-3 [10-2] Momoko Kobori (JAP)

GS2 Beatrice Torelli (ITA) 6-3 6-3 Mai Murahashi (JAP)

GD Mordegan & Torelli (ITA) 2-6 3-6 Kobori & Murahashi (JAP)



イタリア戦 「2勝4敗」 ダブルス2勝



福島晴 6-7(4)6-7(4) ナイスゲーム

夕食 【ウインブルドン施設内】

7月29日

7時30分 集合 トレーニング

8時00分 朝食

9時30分 ホテル出発

10時25分～10時50分 練習

11時00分～17時00分 試合 アルゼンチン

18時00分～19時00分 ウインブルドン施設見学

19時00分～21時00分 夕食

アルゼンチン戦 シングルス3勝1敗 ダブルス1勝1敗 (4勝2敗)

BS1 Kouki Mutou (JAP) 4-6 6-4 [8-10] Genaro Alberto Olivieri (ARG)

BS2 Haru Fukushima (JAP) 6-3 6-3 Nicolas Bacella (ARG)

BD Mutou & Fukushima (JAP) 5-7 4-6 Olivieri & Bacella (ARG)

GS1 Momoko Kobori (JAP) 3-6 6-4 [10-2] Augustina Zamprogno (ARG)

GS2 Mai Murahashi (JAP) 6-1 6-1 Paula Baragnano (ARG)

GD Kobori & Murahashi (JAP) 6-0 6-2 Zamprogno & Baragnano (ARG)



大事な初戦を村橋 6-16-1 で勝利



小堀もシングルス初勝利 3-6 6-4 [10-2]



男子は 2 勝 1 敗

7 月 30 日

7 時 30 分 集合 トレーニング

8 時 00 分 朝食

9 時 30 分 ホテル出発

10 時 25 分～10 時 50 分 練習

11 時 00 分～17 時 00 分 試合 アメリカ戦

18 時 00 分～19 時 00 分 休憩

19 時 00 分～21 時 00 分 夕食 カレーライス

アメリカ戦 シングルス 0 勝 4 敗 ダブルス 0 勝 2 敗 (0 勝 6 敗)

BS1 Kouki Mutou (JAP) 1-6 0-6 Evan Zhu (USA)

BS2 Haru Fukushima (JAP) 6-7(4) 6-4 [16-18] Brian Tsao (USA)

BD Mutou & Fukushima (JAP) 5-7 6-4 [2-10] Zhu & Tsao (USA)

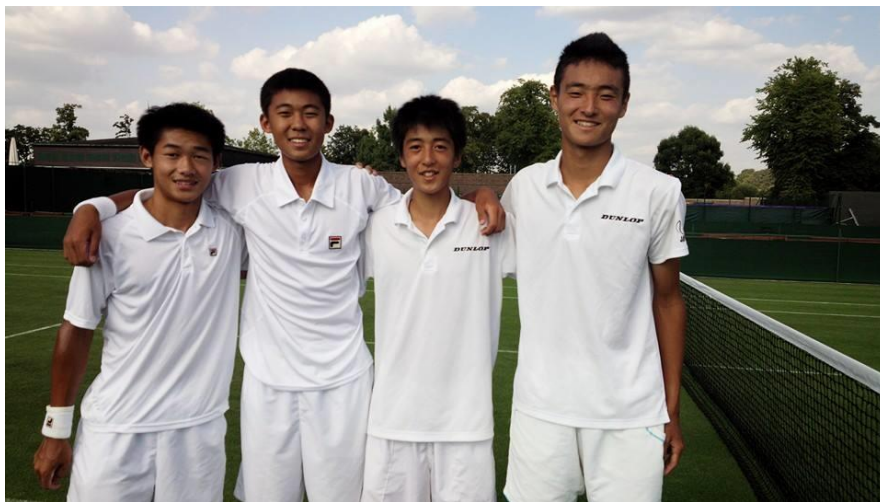
GS1 Momoko Kobori (JAP) 6-3 5-7 [6-10] Usue Arconada (USA)

GS2 Mai Murahashi (JAP) 2-6 2-6 Raveena Kingsley (USA)

GD Kobori & Murahashi (JAP) 1-6 0-6 Arconada & Kingsley (USA)



小堀 ITF30 位の選手に 6-3 5-7 [6-10] あと一歩 おしかった！ 村橋、残念



福島晴 今大会ベストマッチ 6-7(4) 6-4 [16-18] ダブルス 5-7 6-4 [2-10]
3 試合ファイナルスーパータイブレーク 負けたけど日本チーム大健闘

7 月 31 日

7 時 30 分 集合 トレーニング

8 時 00 分 朝食

9 時 30 分 ホテル出発

10 時 25 分～10 時 50 分 練習

11 時 00 分～17 時 00 分 試合

18 時 00 分～19 時 00 分 ウィンブルドン施設見学

19 時 00 分～21 時 00 分 夕食 ピザ「各国の国旗の由来紹介」

南アフリカ戦 シングルス4勝0敗 ダブルス1勝1敗 (5勝1敗)

BS1 Jan Louis Martiz (RSA) 6-3 4-6 [5-10] Kouki Mutou (JAP)

BS2 Richard Thongoana (RSA) 4-6 6-7(9) Haru Fukushima (JAP)

BD Martiz & Thongoana (RSA) 7-5 6-2 Mutou & Fukushima (JAP)

GS1 Lee Barnard (RSA) 1-6 0-6 Momoko Kobori (JAP)

GS2 Zani Barnard (RSA) 2-6 3-6 Mai Murahashi (JAP)

GD Barnard & Barnard (RSA) 4-6 1-6 Kobori & Murahashi (JAP)



相手は双子の姉妹 小堀完勝 6-16-0



村橋も二勝目 6-26-3



武藤洸希はシングルス初勝利 3-66-4 【10-5】



福島晴 シングルス 2 勝目 6-47-6(9)



夕食後のイベント 国旗の由来の紹介、日本チームも英語でスピーチ盛り上がりをみせた。

8月1日

8時00分 朝食

9時30分 ホテル出発

10時25分～10時50分 練習

11時00分～17時00分 試合 イギリス

18時00分～19時00分 ウィンブルドン施設見学

19時00分～21時00分 食事会（ディナーパーティ）

イギリス シングルス0勝4敗 ダブルス0勝2敗 （0勝2敗）日本リタイヤ2試合

BS1 Alexis Canter (GBR) 6-0 6-2 Kouki Mutou (JAP)

BS2 Daniel Bennett (GBR) 6-2 6-2 Haru Fukushima (JAP)

BD Canter & Bennett (GBR) Ret Mutou & Fukushima (JAP).

GS1 Eden Richardson (GBR) 6-4 3-6 [10-8] Momoko Kobori (JAP)

GS2 Ema Lazic (GBR) 6-2 6-3 Mai Murahashi (JAP)

GD Richardson & Lazic (GBR) 6-3 3-4 Ret Kobori & Murahashi (JAP).



小堀桃子までもスーパータイブレークで負け 6-4 3-6 [10-8]惜しい 村橋舞 2-6-3-6



ダブルスは 3-6 4-3 で足首捻挫によるリタイヤ 試合を支配していただけに残念！

男子は福島晴が試合前の練習で腹筋を痛めたため、シングルスは行ったがダブルスはリタイヤ。

FINAL STANDINGS

	TEAM	PLAYED	WON	LOST	RUBBERS	SETS	GAMES	POINTS
1	USA	5	4	1	22-10	45-23	318-211	4
2	Argentina	5	3	2	15-18	27-39	226-308	3
3	Great Britain	5	3	2	20-11	41-25	293-232	3
4	Italy	5	3	2	19-14	41-31	306-264	3
5	Japan	5	2	3	11-19	29-38	252-277	2
6	South Africa	5	0	5	8-23	20-47	209-312	0

試合の総評

日本は、初戦優勝候補のイタリアとの対戦だった。この世界大会はレベルの高い大会と聞いていただけに、朝より万全の準備をして試合に挑んだが、時差の影響や日本の選手全員が芝コートで初めての試合とあって、選手の動きはいまひとつ様子を伺いながらの試合運びとなった。シングルスは全ての選手が接戦はするものの大切なポイントが取れずに全敗となった。試合を見ていて身体や体力の違いは明らか、海外の選手は成長期が早くすでに大人の体格、プレーに力強さを感じた。この差を埋めるには、どうすればいいか課題が残った。シングルスの後に行われたダブルスは緊張感もとれコートにも慣れたのか楽しくプレーしており男女とも勝利を得ることができた。この勝利で選手間のチームワークが良くなったように思う。明るいムードとなった。

2 対戦目はアルゼンチンとの対戦、女子 NO2 の村橋がラリー戦を制しシングルス初勝利、ミスを誘い出す完璧な試合運びだった。NO1 小堀は ITF231 位の相手に **3-6 6-4 [10-2]** で競い勝ちしてこの後のダブルスも制し女子 3 勝して勝利に貢献した。男子は大接戦を展開、シングルス福島が制し武藤がスーパータイブレークで落とすとダブルスも接戦の末敗れた。

4 勝 2 敗で勝利したものの、今回のチームの NO1 はどの国も相当レベルが高いと感じた対戦だった。この勝利が過去を通じて初の勝利を得たとのこと、ほっとした瞬間でもあった。

3 対戦目はアメリカとの対戦、女子 ITF30 位と 63 位の選手を要するこのチームは優勝するために世界大会に来ているという雰囲気漂わせていた。試合の進め方やプレーがとても積極的で、攻撃的なショットの精度がとても高かった。特に女子 NO2 の選手は将来性を感じさせるプレーをしており数年後には 4 大会に出場しているのだろうと思わせる内容であった。NO1 の小堀は、この ITF30 位の選手に **6-3 5-7 [6-10]** と大接戦、スーパータイブレークでも 6-5 アップからの敗戦であった。勝てるチャンスがあっただけにとても残念だったが、ラリーが 10 本以上続く展開から如何にポイントを獲得べきか学んだ試合になったように思う。とにかくしつこい相手だった、世界で戦って 30 位をキープしているだけあって、接戦しても負けない精神力は立派。男子は中国系アメリカ人であったが、プレーは日本人に無いパワフルさを

持っていた。とにかく打球音が違った。N02 の福島がこの大会ベストマッチと思わせる試合を行った。スーパータイブレーク 16-18 で負けたものの双方にマッチポイントが行き来する内容は地元の観客を巻き込み盛り上がりを見せた。ここまで素晴らしいプレーができるとは、ウインブルドンは選手を上手にできる何かがあると感じた。

この対戦は全敗ではあったが一つ流れが変わると日本にもチャンスがあったのかと思わせる内容であっただけに残念。流れを持っていかせないアメリカは強かったと思う。

4 対戦目は南アフリカとの対戦、大会会場で練習を見たときに南アフリカには勝つチャンスがあるかなと？ 鷲田コーチの発言。

試合は、鷲田コーチの発言通り進み女子は双子の姉妹にシングルス2勝、男子は福島が勝利してN01の武藤のシングルスに大手がかかった。武藤は相手が調子がよくファーストセットは簡単にとられたものの。セカンドセットから徐々に自分のペースをつかみ6-4で取り、ファイナルスーパータイブレーク【10-5】で勝利した。今回のN01は、どのチームもレベルが高く勝つことが難しいと思っていたが、集中力を維持して良く勝ったと思う。今大会シングルス初勝利 良かった、良かった。

5 対戦目の最終戦は地元イギリス戦。最終戦なので持てる力を出し切れば、勝てない相手ではないと思っていたが、選手は連戦で疲労がピーク、福島晴が朝の練習中に腹筋を痛めてシングルスは消化するもののダブルスはリタイアせざる負えない状況となった。女子は、小堀がシングルスは善戦するものの相手のジャッジや試合態度に集中力を切らしてファイナルスーパータイブレーク【10-8】で負けるという、またしても惜しい試合を逃してしまった。その後行われた女子ダブルスは、小堀らしいテクニックが随所に見られた。試合はファーストダウンしたが、そこから何か吹っ切れた感じの動きを見せて、我々も驚くような素晴らしい内容の試合を展開した。セカンド4-3リードでゲームを押し気味に進めジュースを7~8回繰り返す中でアクシデントは起きた。小堀がフォアサイドからクロスに飛んできたボールを追いかけて打ちに行っていたが、打てずに2バウンドしたボールの上に乗り捻挫をした。応急処置してプレー再開したが違和感があるということで大事をとりこの試合を棄権した。結局この対戦の全敗が確定した。勝ち切るには心技体の強化が必要であるということを選手は肌で感じたので、更なる進化を期待したい。

1位 アメリカ4勝1敗 2位 アルゼンチン3勝2敗 3位 イギリス3勝2敗
4位 イタリア3勝2敗 5位 日本 2勝3敗 6位 南アフリカ

日本は2勝したのですが、3勝2敗のチームが3チームに出たため順位決定戦を行い上記の通りの戦績となりました。

今回、参加した選手はウインブルドンで世界の選手とレベルの高い試合ができ、またICスタッフのサポートを受け普通ではできないことを体験できました。大会を通じていろいろな面で著しく成長しました。

日本の選手は全員英語を苦手としていましたが、積極的に行動して他国の選手と打ち解けようと努力していたように思いました。特に福島晴は、男女一名に与えられるスポーツマンシップ賞があることをしり、自分がもらうと公言して、いろいろな場面でアピールしていました。スポーツマンシップ賞は、試合態度、試合でのコール、イベントでの活躍などが指標となり各国の推薦が多かった選



手に贈られますが、最後の表彰式で福島晴が受賞することになり我々もビックリすると同時に本当に嬉しく思いました。有言実行すばらしい賞をいただきました。福島晴を初めとする参加した選手全員は、大会を通じて人生観が変わり人間力アップしました。今後のテニスにとってとてもプラスになると思います。

今後この IC の大会がますます発展することを願っております。

中村吉人



8月3日 羽田無事帰国